

佐賀市 43 歴史探訪

ひ え じん じゃ ひら 日枝神社の「おかゆ開き」

皆さんは粥占いというものをご存じでしょうか。古くは「粥占神事かゆ占のしんじ」といわれた、一年間の天候や作物の豊凶を占う「年占としら」の一種です。

今回紹介する日枝神社の「おかゆ開き」は、この粥占いを今に伝えるもので、次のような方法で行われています。

お供えた米で、1月14日夜に粥を炊き、写真にある二つの鉢に盛ります。粥の上には稲わらを置いたり、旗を立てたりして、地域や地区を表します。これを1月15日早朝、社殿に奉納し、2月15日に開きます。この間、粥に生えたカビの色などで吉凶を占い、各地区での暮らしの参考とします。

吉兆を示すのは、青色・黄色・白色のカビとされています。カビ全体に乾燥がひどい場合は干ばつ、水玉に見えるカビが多いときは大水の兆しきざとされます。黒カビは水の災い、赤カビは火の災いを表し、注意が必要といわれています。これに加えて、それぞれカビの色の濃淡によっても微妙に意味合いが異なるそうです。

他地域では、炊き上がった時に棒の割目や竹の管に入った粥の分量で占う方法が多いようで、粥に生えたカビで占う方法は珍しいと言えるかも知れません。



▲奉納された「おかゆ」



▲「おかゆ開き」の様子



▲「おかゆ開き」の鉢

一口メモ

粥占いは、小正月こしょうがつ(1月15日)の行事として、以前は各地で行われていましたが、今でも傳承されている所は少なくなっているようです。2月15日、おかゆ開きの鉢は、日枝神社の社殿に飾られます。皆さんもお訪ねになってみてはいかがでしょうか。

